

NECROSIS



Step1
長方形の敷地



Step2
直方体のボリューム



Step3
対角線上に波を描くように配置



Step4
分割し複数の分かれた住戸



NECROSISという新たな集合住宅の可能性

従来の集合住宅は積層された箱の中に閉じ込められ、量的な拡充を目的としたものが多く見受けられる。様々なことが多様化される中で住宅に対する考え方も変化してきているように思える。そこでこのNECROSISを提案する。

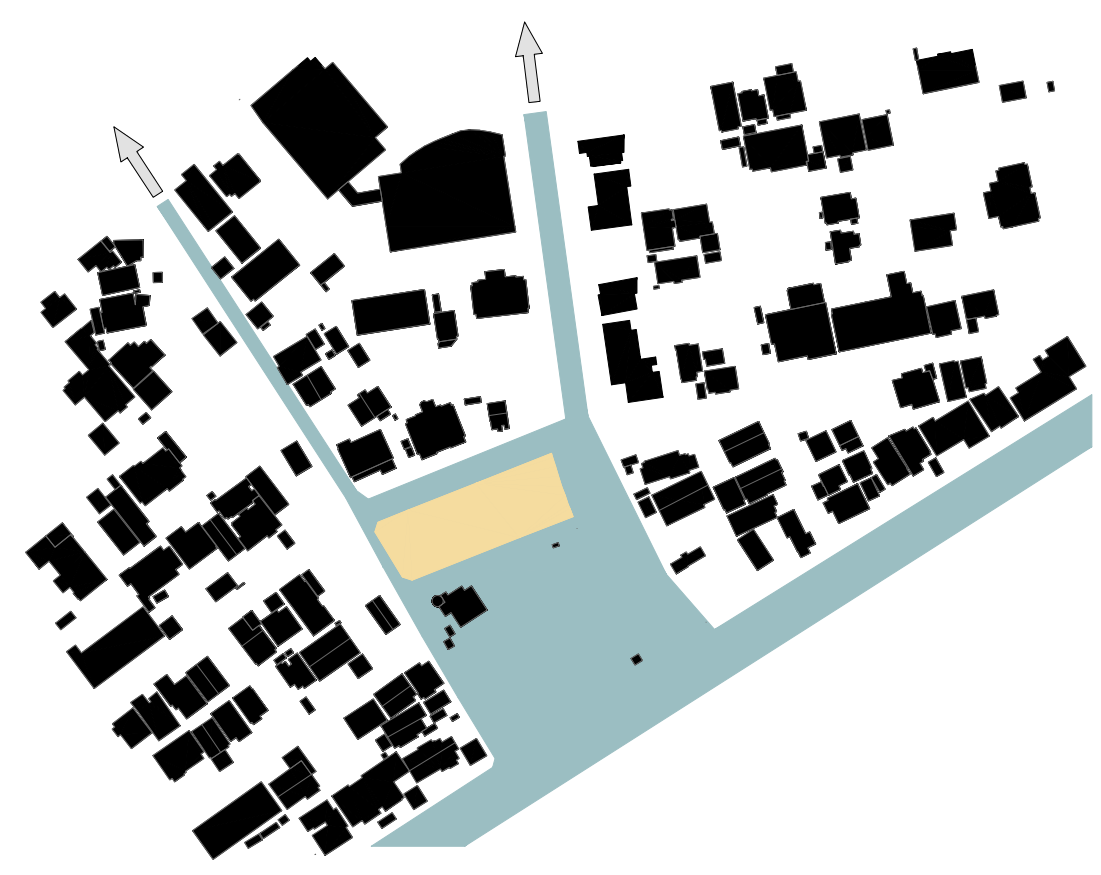
集合住宅は戸建てと違い人々が小さな空間に密集し住民全体で住空間を創り上げる特殊な空間であるがプライバシーの確保やセキュリティの関係によりコミュニティが形成されにくいなどの問題点も多い。

そこで豊かな住空間を創るため開放性、閉鎖性、住戸間のつながり、この三つを主にデザインした。開放性では勝川南公園が南に位置し地蔵川が見えるという敷地で南側が開放されているというのが特徴である。そのため公園に住戸が伸びるようなデザインとした。

対して閉鎖感としてプライバシーを確保するためのパンチングメタルでできた膜を設け、透明感を残しつつ敷地の内部と外部を曖昧に分ける。

住戸間のつながりは様々なアイレベルやガラスのカーテンウォール、1階の共有広場や路地を設けコミュニティの形成を促す。

住空間の固定化をせず気分によってカスタマイズできることにより快適なおうち時間を演出できる。



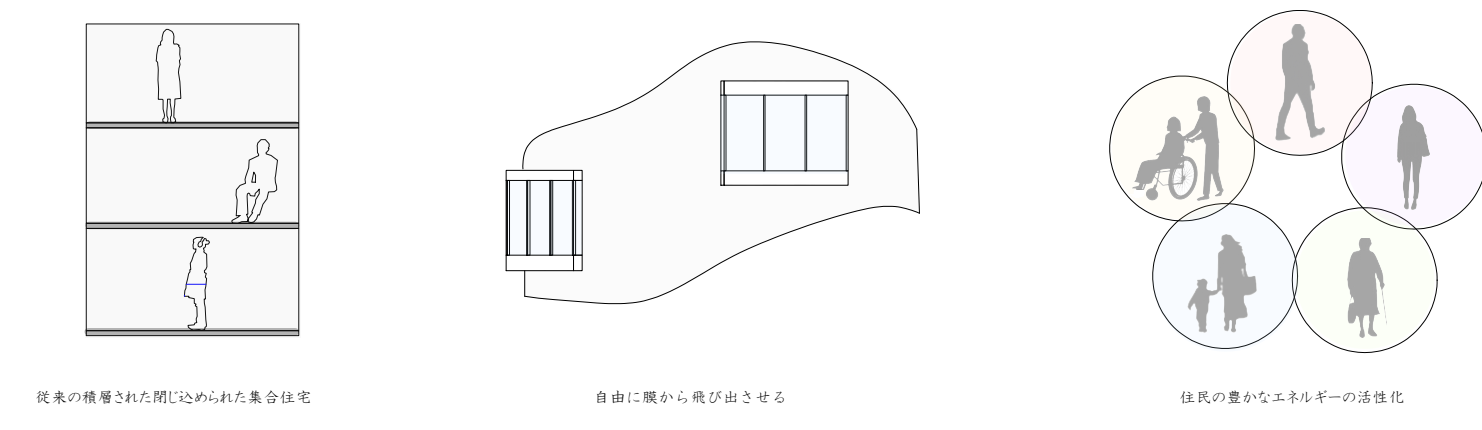
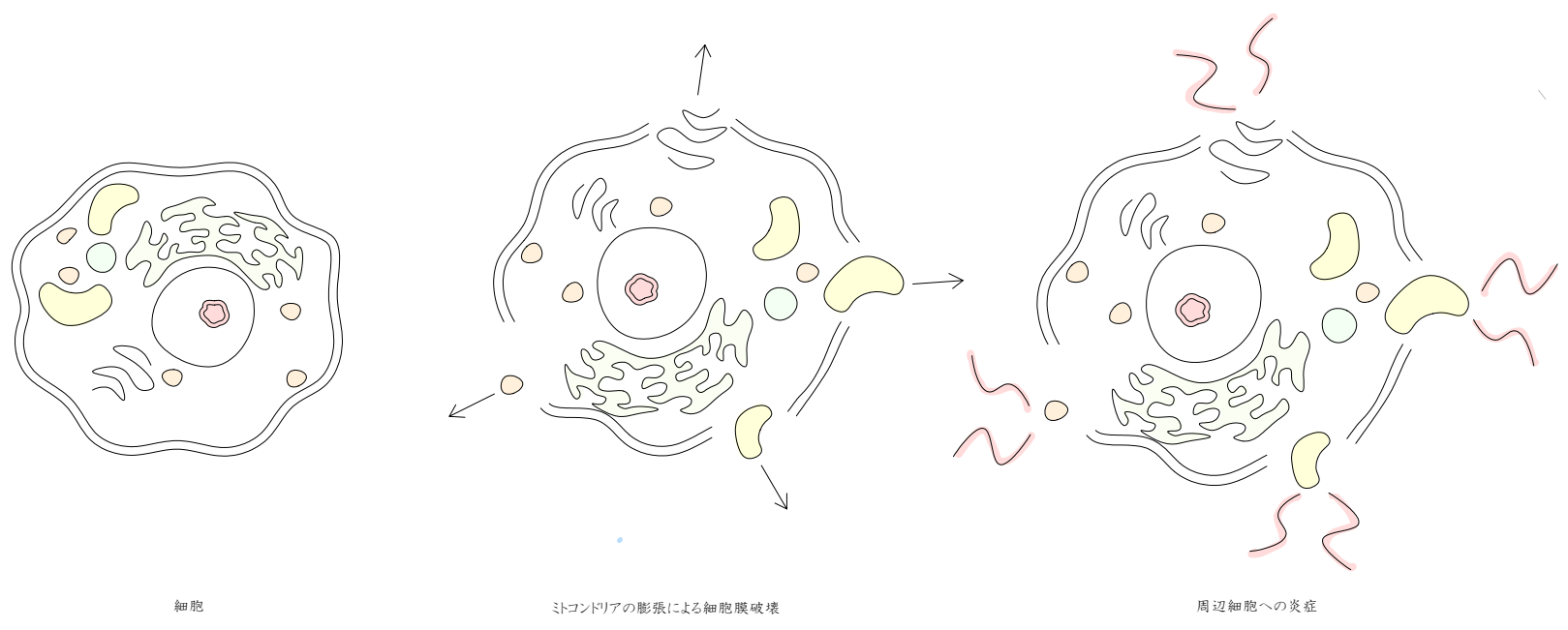
敷地南に勝川南公園や地蔵川が位置し建物のない大きな空間が広がっている。敷地が川からの風を妨げないように機能しなければならないことが見て取れる



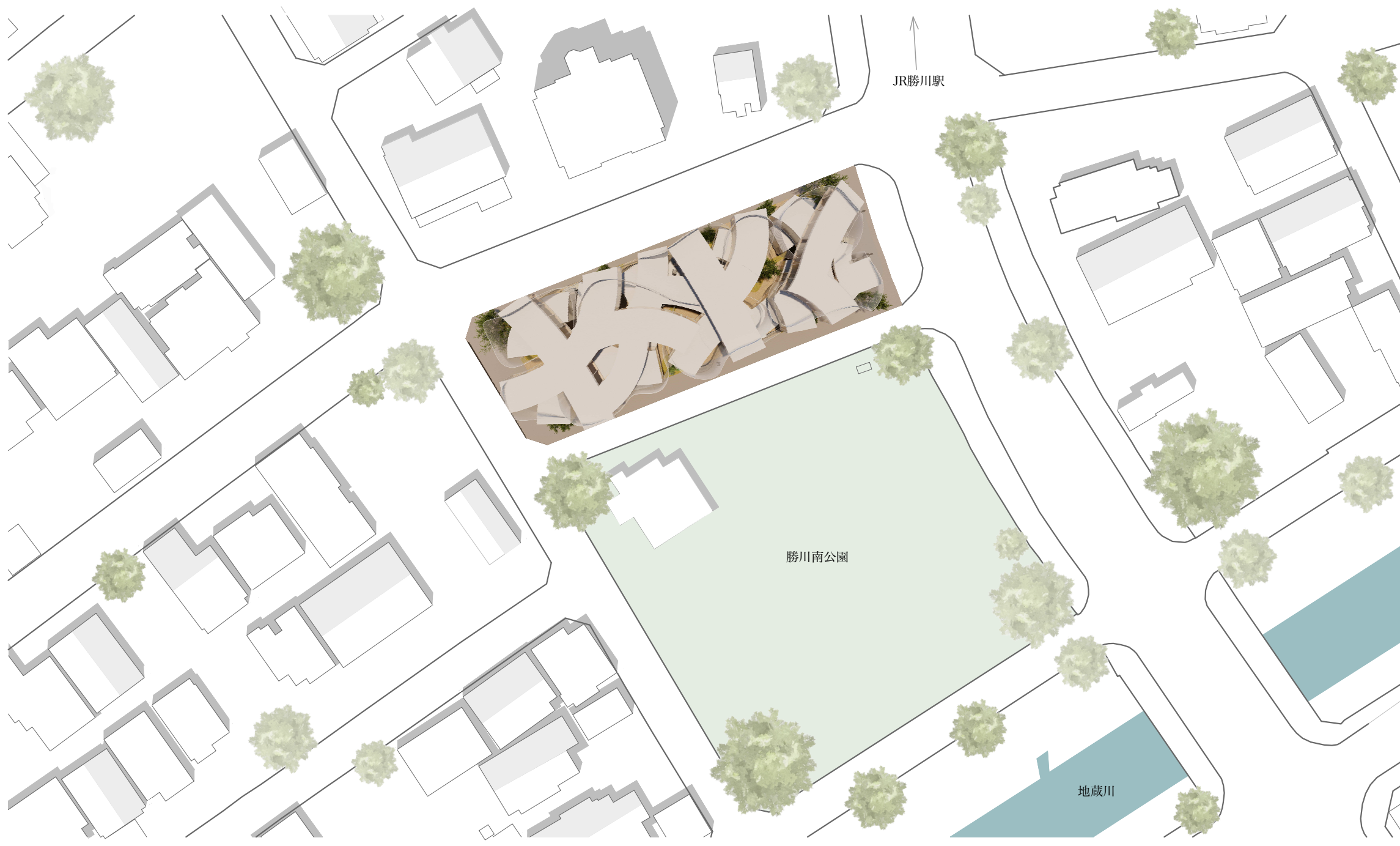
敷地周辺は開けた空間で川沿いからも敷地を見渡せる。周辺建物との距離もより様々なレベルの建物が混在している。

細胞膜破壊と集合住宅の関係

ネクロシスとは細胞膜破壊の一種でミトコンドリアが膨張することで細胞膜を破壊し破壊した際には炎症が生じる



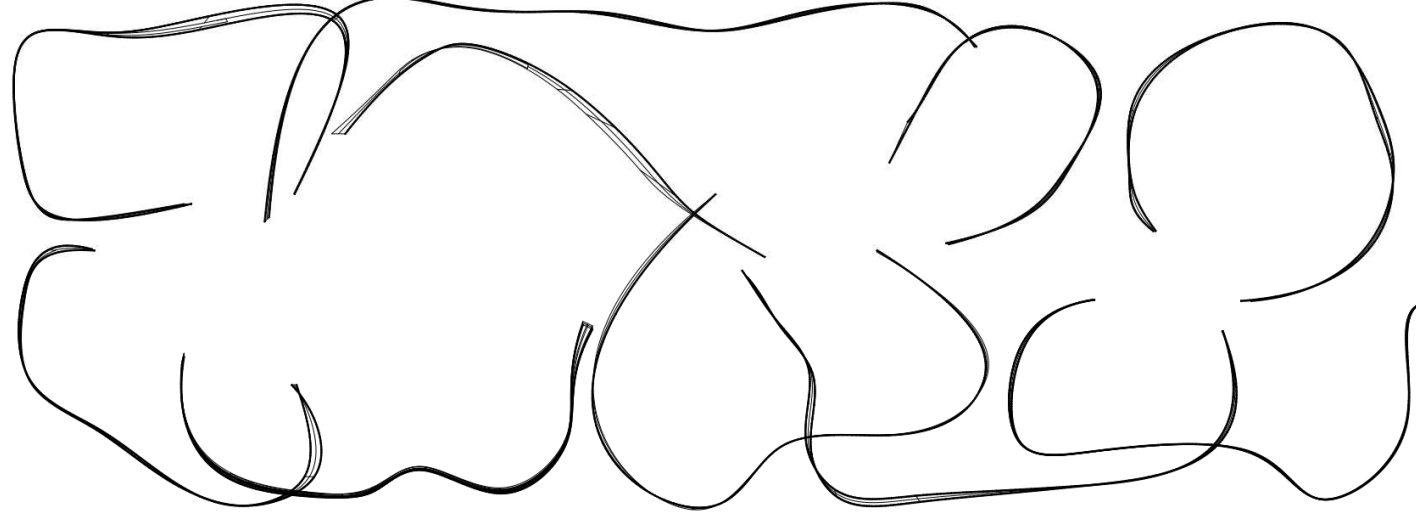
この集合住宅ではネクロシスをベースにデザインしている。住戸全体と膜を一つの細胞ととらえることで細胞が破壊した様子を建物全体で表している。ネクロシスのミトコンドリアの膨張現象を、それぞれの住戸が膜から飛び出している様子で表現し、さらに破壊した際に生じる炎症を住民の豊かなエネルギーとコミュニティの形成として紐づけ、周辺地域への新たな変化や豊かさをもたらすと考える。



北にマンション南に公園、地蔵川があり四方が道路に囲まれている。静かな住宅地だが東の道を北に行くとJR勝川駅があり交通量、人通りも多く活気がある地域である。公園では遊んでいる子供たちや散歩をしている大人、親子で遊んでいる人などでにぎわい、公園内に供用施設があるため公園利用者は多い。

↓南立面図
いくつかの膜がデザインされており住戸が突き抜け細胞膜を破壊している。膜をグランドラインから浮かせることにより建物全体の不空間を演出する。

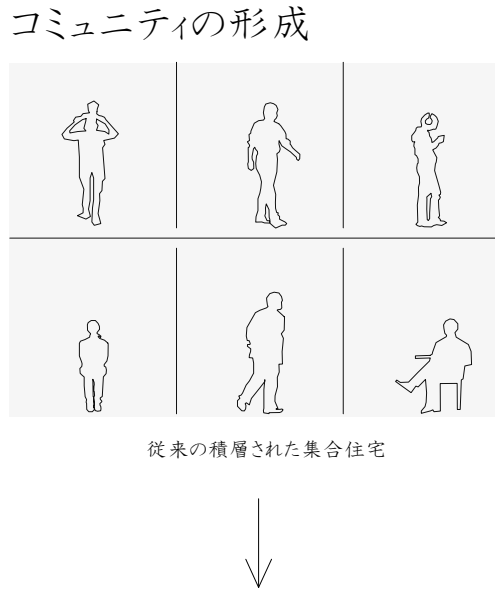




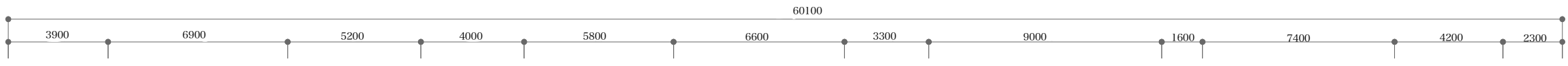
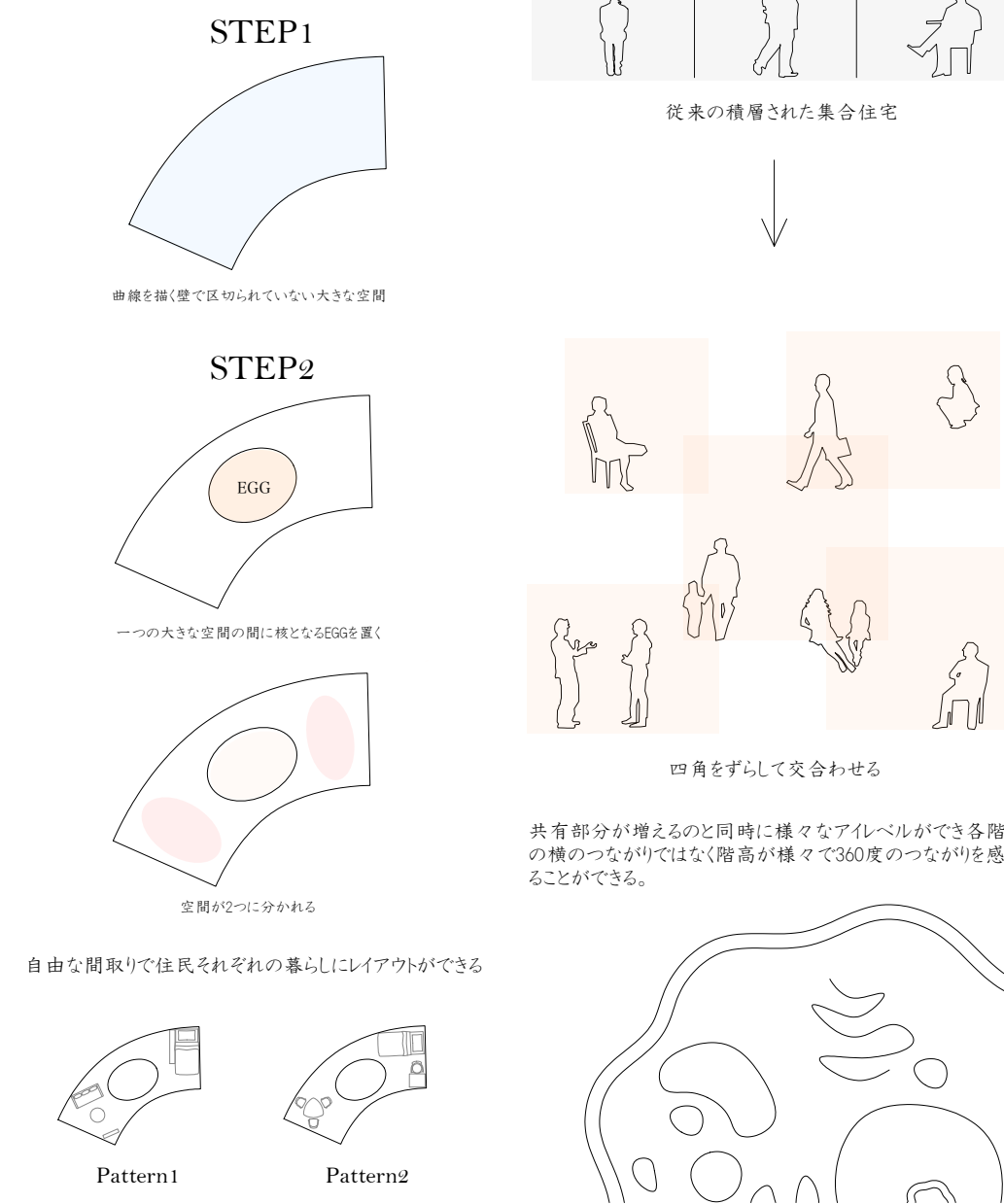
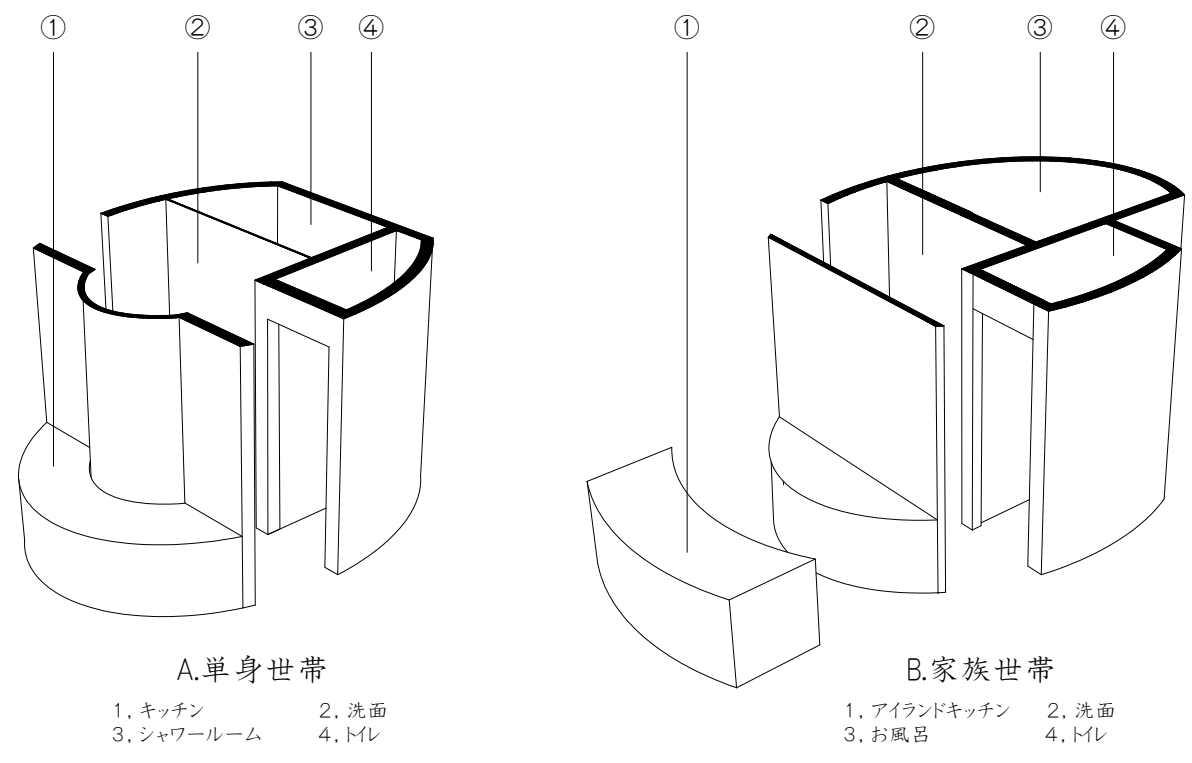
自由な空間
従来の集合住宅の問題点
・間取りの変更がしにくい
・入れる人数が決まっている(ファミリー向けや単身など)

集合住宅は戸建てと違い様々な人が入ったり出たりする
特徴があるにもかかわらず
部屋の用途が決まっていると家族構成が限定される

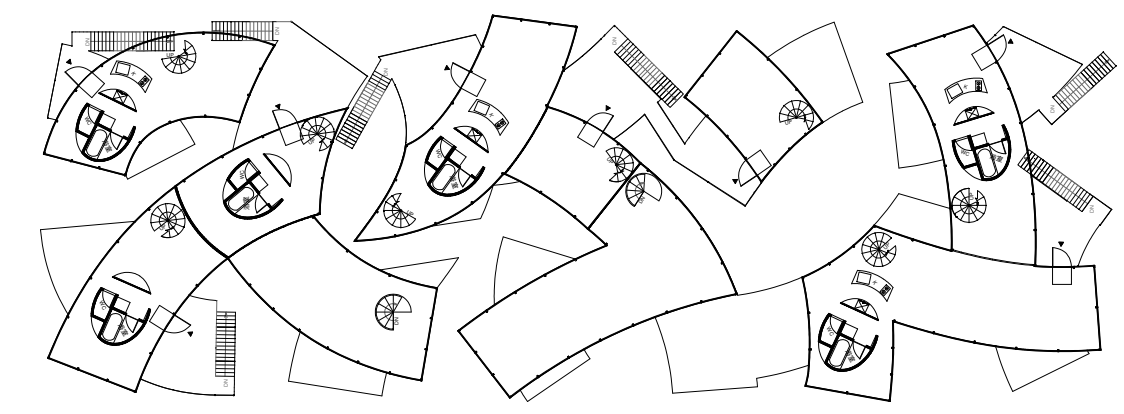
このような問題を解決すれば
多様性に対応できる集合住宅となる



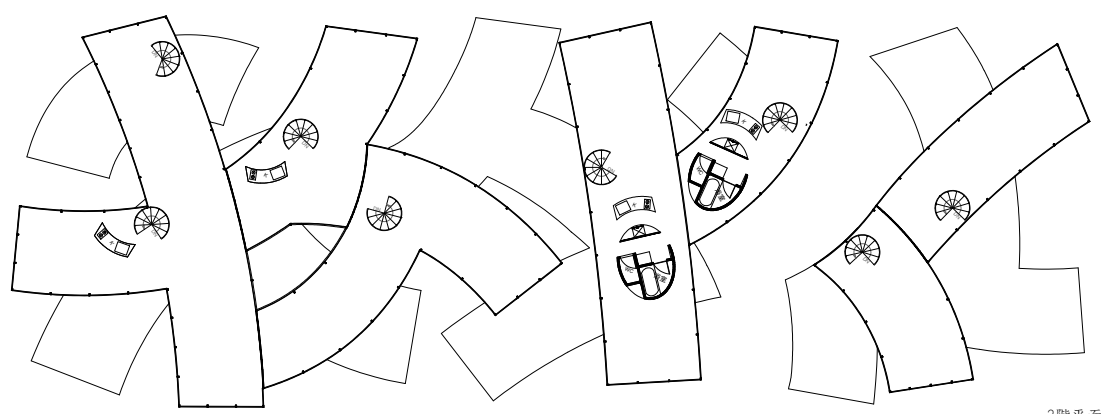
EGG 住宅に必要な不可欠なトイレ、浴室、キッチンを含めた住戸の核となる部分を卵型のようにデザインしている。



1階平面図 1/200



2階平面図 1/400

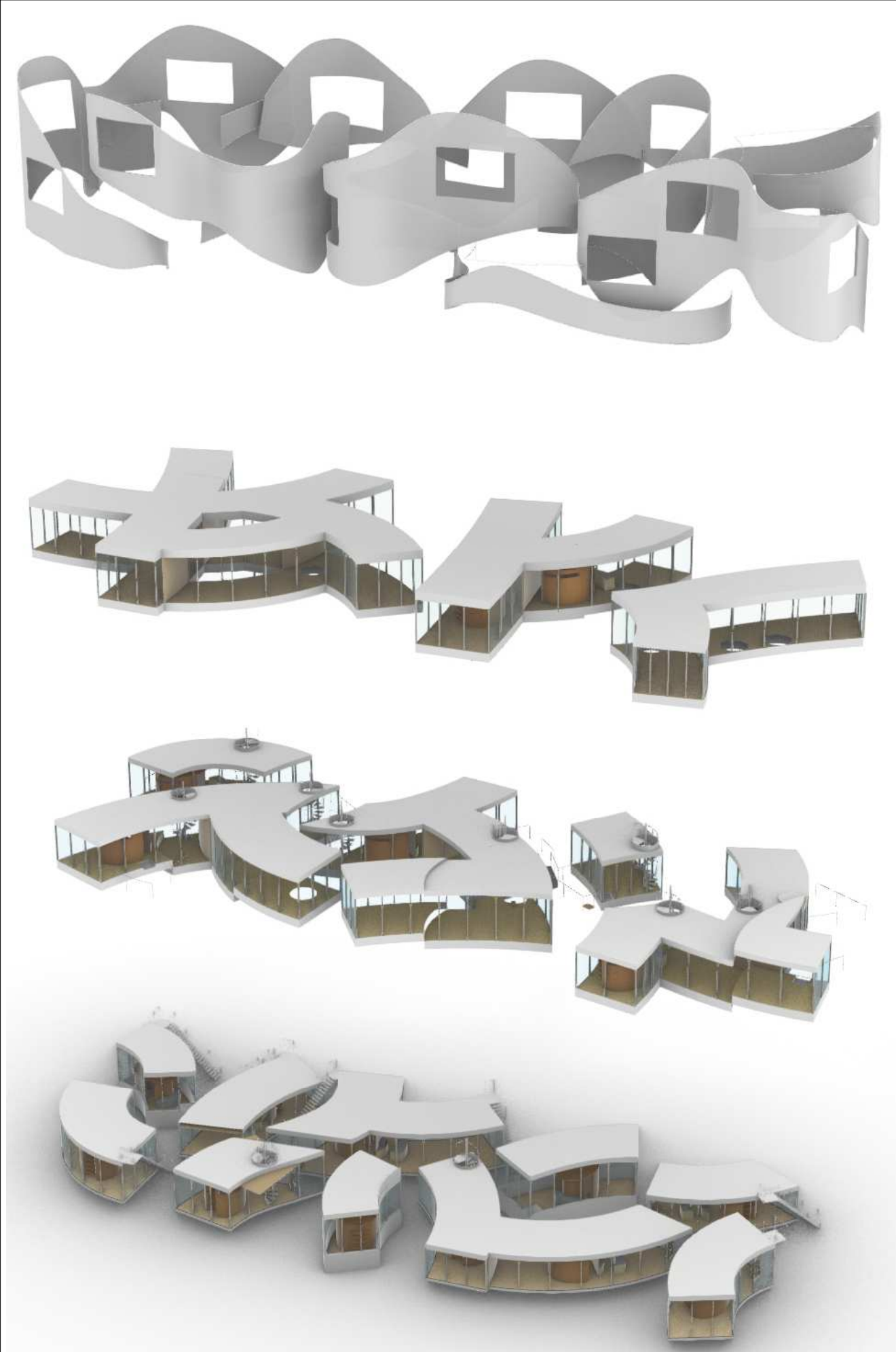


3階平面図 1/400



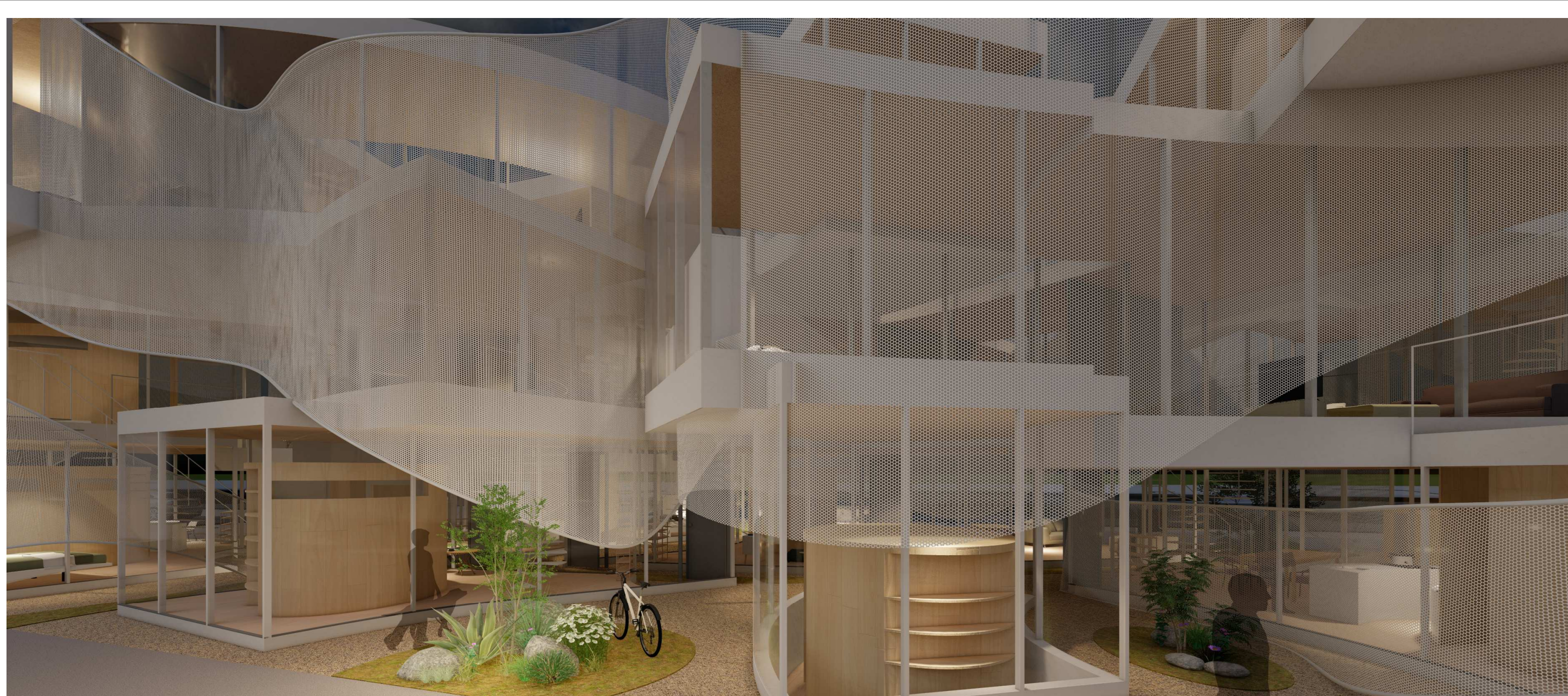
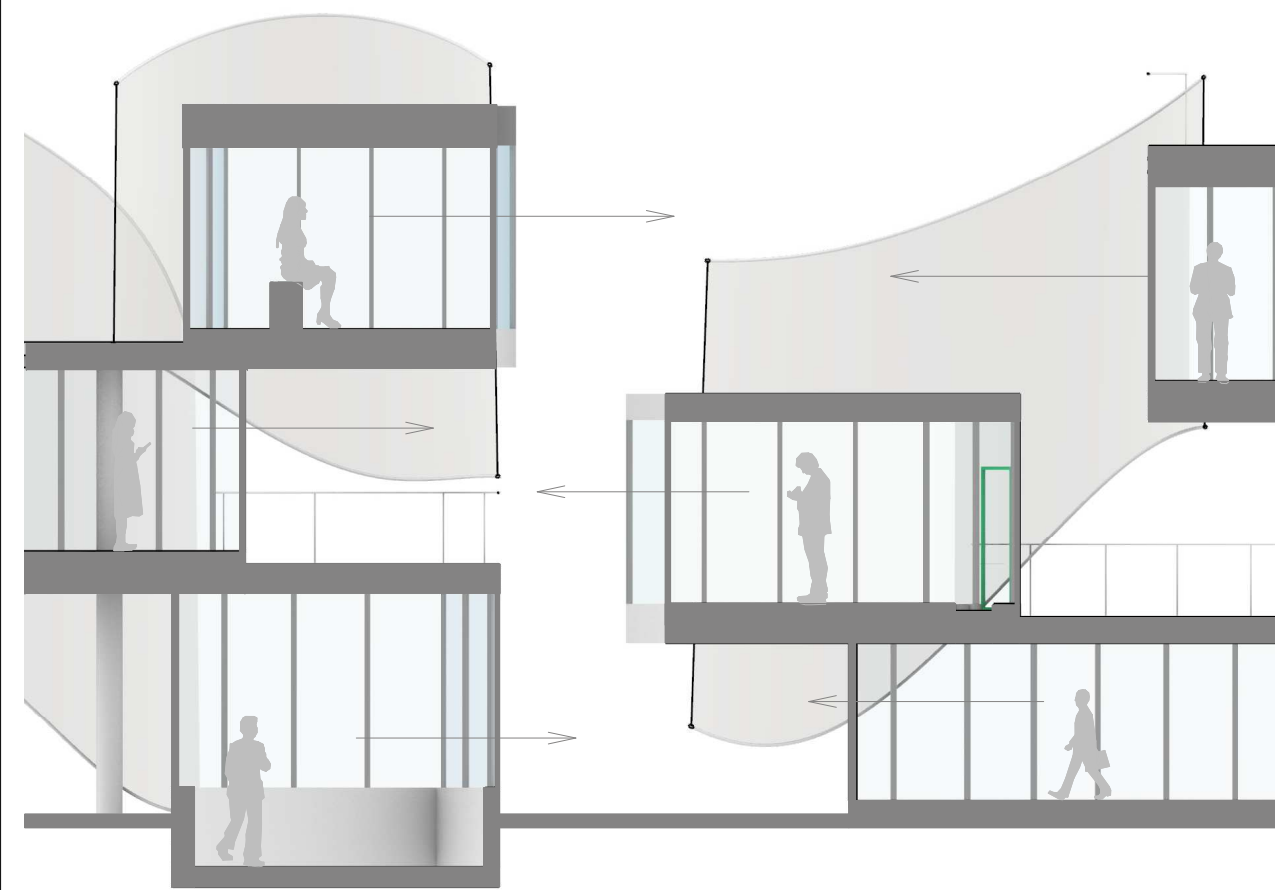
←平面図
1階はすべての玄関が敷地中央に位置しており路地のような役割を果たす。3つの住戸は単身世帯向けにしており半地下となっている。ところどころに小さな庭をデザインし敷地と道路との距離をとる。二階に上がる外部階段は1階玄関から離れたところに設置。
2階は玄関ポーチがプライベートスペースとなっている。



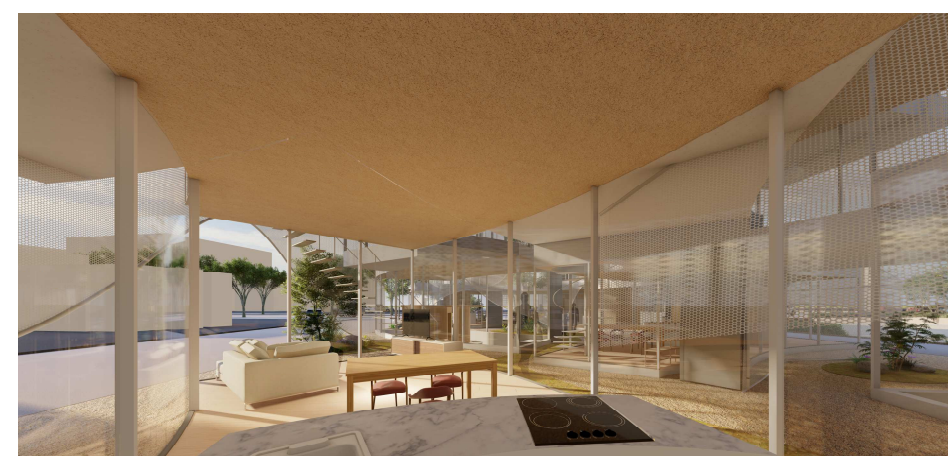


↑ 住空間に侵入する膜は住戸間のプライバシーの確保と地域との境界を曖昧にする役割を担う。さらに膜によって細胞膜破壊を表現しており住戸を突き出させることで破壊を強調させている。そしてグランドラインから浮かせることで建物全体の浮遊感を演出させる。
1階は小さい住戸が並び上に行くにつれて大きな塊の住戸になっていく。住戸一つの面積が増えていくからである。
2階、3階はメゾネットとなっておりすべて2階からアクセスするようになっている。

↓ アイレベル
様々なレベルの住戸が存在することで視線が重ならないようになっており、住戸間のプライバシーを確保する。



↑ 断面図



住所	愛知県春日井市松新町6
敷地面積	1,19 × 10 ³ 平米
建築面積	9,14 × 10 ³ 平米
建蔽率	76.8%
延床面積	1,13 × 10 ³ 平米
容積率	94.9%
住戸数	20